北ア・白骨温泉～十石山

記　T野

（Ｍｔ乗鞍スキー場積雪120㎝）

2020年2月9日

メンバー：T野・Ｎ井・Ｓ木・Ｙ科・Ｋ林・Ｔ中Ｍ・Ｏ川

昨日泊まった「さわんど温泉ともしび」は素泊まりで約￥3500（入湯税・暖房費込み）で温泉入り放題、布団ありでまずまず快適。今後もこの辺りに来るときは利用度は高い。白骨温泉までは車で 10 分程と便利だ。白骨温泉は初めて来たので取付きまで少し迷ったがまあ順調に行けた。4ＷＤならゲートまで車で入れ 15 分程歩きを短縮できるがＦＦだと手前の温泉の林道入口に車をデポすることになる。

Ｎ井車もＴ野車もＦＦなので温泉の林道入口を 7:05 出発、7:20 に十石山登山口に着くがこの山の経験者のＫ林さんによるとここから登ると細く急な尾根でスキーだと苦労するそうでしばらく林道を歩く。ここからさらに 20 分ほど林道を歩き、峠を越えて下り始めて最初のカーブのところが取付だ。これは覚えておいた方が良い。

この辺りまで来るとなぜか急に雪が増えてスキーでどこでも歩けるようになる。結構人気の山のようで入山者が多い。Ｋ林さんによると以前はほとんど人がいなくて貸し切りが当たり前だったようだが最近は標高の高い樹林帯の山でパウダーゲット率の高い山としてネットでも紹介されて人気が出たようだ。

■写真上　下部樹林帯にて。
■写真下　森の妖精？

最初から結構急斜面を登って行く。1800m付近まで登ると傾斜が緩み 1835mピークを巻くようにしばらくは平行移動。再び傾斜が増すと再び急登。ほぼ一本調子の尾根登りとなり高度も稼げる。ずっと樹林帯だが、その分風も弱く穏やかで気温は低いが気持ち良く登って行ける。2200mを越えると樹林もまばらになり尾根も広がり帰りの滑降が楽しみだ。しかし森林限界の 2400m付近を越えると状況は一変、爆風が吹き荒れ、樹林がないため視界も悪く斜面も見にくい。山頂直下は雪が硬くクトーを付けないと厳しい状況になるがあまりのんびりと準備していられる状況ではなく時間も押してくる。山頂直下の 2500mまで登ったが気温は-15 度を下回り、メンバーの動作も緩慢になり、時間もかかりそうだ。さらにこの上に登ってもカリカリ斜面を滑降することになるため、これ以上登ると帰路も滑降に手間取り、この厳しい状況の中で長時間晒されることになりそうだ。ということで、潔くここで撤退を決意。山頂小屋まで登っていたＮ井さんを呼びに行き全員終結、下山に移る。

ほんの２ターンほど滑ると信じられないほど穏やかになりほんの少し上の爆風が嘘のよう、さらに雪も最上級のパウダーに変化して今年一番の快適滑降に雄たけびを上げる！！Ｙ科さん曰く「年齢を忘れます。」　今回参加の唯一学生のＯ川君曰く「今までこんなフワフワな雪滑ったことありません！！気持ちいいですね！！」ホントシーズンに１度あるかないかの素晴らしい雪だ！！写真も撮るのを忘れて滑降に酔いしれる。おかげで今回は写真、あまりありません。樹林帯に入っても最高の雪であまりの快適さでメンバーが一瞬はぐれてしまうアクシデントもあったが携帯が通じて事なきを得る。視界の利かない樹林帯での大パーティーの行動は、バディーシステムを取ることとトップより下にはいかないことを徹底しなければならない。今後の教訓にしようと思う。また、上部の樹林帯は気持ち良さに身を任せて快適な方（右側の斜面）に滑っていくと後が大変と経験者のＫ林さんからアドバイスを受ける。ここは登りのトレースを意識しながら滑るのが常套手段のようだ。（ただ、尾根の右側の斜面で 2304m標高点に向かう斜面は、往路がシュプールでギタギタでなおかつ体力に余裕があったら探査しても楽しそうだ。1950m付近の傾斜の緩いところで１本沢があるが左にトラバースすれば何とか戻れそうな気がする。）

この後もほぼ登りのトレース沿いを滑るが1800m付近までは快適であっという間、その後しばらく平行移動して最後はやや木の混んだ急斜面を慎重に滑り、左側に回り込むと林道に戻ることができ、あとは車まで林道ボブスレー。滑りごたえ充分で最後まで快適な滑降で締めくくることができた。ここは定番になる予感がたっぷり。いい山に出会えてよかった！！

帰路はさわんど温泉の梓湖畔の湯（￥730）に入ったが露天も広くきれいでお奨め。大した渋滞もなく順調に帰京した。

■写真上　森の妖精２号？
■写真中　快適な疎林帯。
■写真下　山頂直下の爆風帯。

■コースタイム
白骨温泉林道入口（7:05）～（12:30）2500m付近（12:50）～（15:00）白骨温泉林道入口